未来の種を見つけに行こう!

宮城県大崎市　特定非営利活動法人エコパル化女沼（けじょぬま）

「これ、食べてみてね」「あっ、酸っぱい！」。ガイドの高橋和吉さんに勧められ、野草の茎を口に入れた子どもたちはびっくり。「これ、大人の方で食べたことある人はいます？」と高橋さんが尋ねるが、親世代の方も誰も口にしたことが無い様子。「これは酸葉（すいば）といって、自分が子どもの頃は、学校の行き帰りにお腹が減ってのどが渇いたときにこれを吸って歩いていたんだよ」と親子に語りかける。

5月下旬、宮城県大崎市にある化女沼において、特定非営利活動法人エコパル化女沼（理事長・高橋和吉さん）による「里地里山探検隊」が開催された。化女沼と周囲の里山をフィールドに、自然の中で遊ぶ機会が少なくなった子どもたちのために、自然の不思議や生き物のたくましさに気づいてもらおうと毎月開催する取り組みだ。

この日は「身近に見られる山菜を食べよう」をテーマに、里山を歩きながら山菜や野草を観察し、その名前や由来を教えてもらい、最後は摘みたての山菜を天ぷらで食べる。

参加者は30名から多い時は約100名の参加者になるが、この日は地域の運動会と重なり親子合わせて10名の参加となった。

9時過ぎに一同出発。里山の道を歩きながら足元にある数々の野草・・・シソの特徴と薬草としての効果、天ぷらにすると美味しいシロツメクサの花とニセアカシアの花といった話を聞き、足元に実際に食べられる野草がこんなにも生えていることに驚く。

また、高橋さんは、ウルシかぶれの原因になるツタウルシや猛毒のコウライテンナンショウを手にとり解説する。「先生が高校生のころ、どのくらい毒があるか試そうと、ちょっとだけ舐めてみた瞬間、ビリビリビリっとして言葉が話せなくなった。すぐに吐いたので問題なかった」との体験談に子ど

もたちは真剣に聞き入る。

1時間ほどで観察を終えた一行は公園のステージのある場所に戻る。スタッフは早朝に採集したウドなどの野草を天ぷらに揚げ続け、カラスノエンドウ、シロツメクサ、ヒメジョオン、クワ、カキの葉、ハコベ、ハルジオン、ヨモギ、ウド、ニセアカシアなどが並んだ。出来立ての野草の香りがたまらない。

この日参加した小学生の石橋くん兄弟は「ハルジオンの穴の開いている茎のストローはブツブツが多いのでちょっと厳しいかな～」と苦笑い。幼稚園の頃から参加を続けており、友達からはキノコ博士と言われることも。植物は好き、生き物は何でも好き。将来は生物に関わる仕事をしたいという。

エコパル化女沼は、ラムサール条約登録湿地化女沼の環境保護のため、周辺の4つの集落（長岡、清滝、富永、宮沢）等が中心となり、平成21年7月に設立し活動を展開している。

化女沼は、世界農業遺産の認定を受けた大崎市にある自然環境豊かな湖。灌漑と治水を目的に整備されたダム湖（もともとは自然の沼）で、生き物たちの宝庫となっている。特にハクチョウ、ガン、カモなどの渡り鳥の越冬地となっており、中でも「亜種ヒシクイ」の日本最大の越冬地として、2008年にはラムサール条約登録湿地に指定された。

エコパル化女沼では、化女沼の植生調査を続け750種類以上の植物があることを把握している。「こうした調査や植生の目録がラムサール条約の登録の決め手になったのかもしれない」と感じている。

エコパル化女沼の事業は、里地里山探検隊などの会独自の事業と、市から依頼を受けて実施する事業がある。市の補助を受け、外来魚の駆除、自由広場の樹木や草原の管理、化女

沼の植生の保存活動などを行うほか、ダムに隣接した観光資料館の指定管理を受け、同会で職員を雇用し一人が常駐する。エコパル化女沼の理事は現在10名で、このメンバーがほとんどの活動を担っている。メンバーの一人笠原さんは「絶滅危惧種の保護など豊かな自然を次世代に残すことを実感している」と話す。

代表の高橋さんはもともと、定年まで教員を務めていた。幼い頃から植物が大好きで高校や大学では生物部におり、先生に代わって標本の植物を解説したことも。山歩きとシダが大好きな青年だったそうだ。

昭和44年に宮城県で教員になると、県内の植物仲間を増やしたいと、同じ考えの仲間2名と東北大学等に呼びかけ「宮城植物の会」を立ち上げる。教師になって間もない頃に、県内の網地島に赴任。赴任中の2年間に、島内の道なき道を歩き回り、島の植生を調べ上げて昭和47年7月に「宮城県網地島植物誌」を出版した。高橋さんは「みやぎの山菜」「みやぎのキノコ」「みやぎの薬草」といった著作も出している。「食べられたり薬になるなど、実際に役立つ野草の情報を求める人が多いですね」とライフワークを振り返る。

里地里山探検隊は親子での参加を原則にしている。その日体験したことを自宅で思い出しながら親子で会話してもらい、自然に対する理解を深めてほしいとの思いからだ。親子と地域が子どもたちの成長に互いに関わりながら、自然の不思議を子どもたちがたくさん見つけて、健やかな成長につなげていければと願っている。

【連絡先】
特定非営利活動法人エコパル化女沼（理事長・高橋和吉さん）
https://ecopal-kejonuma.jp